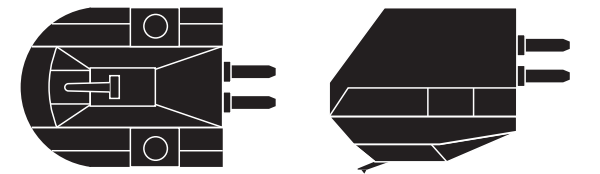


取扱説明書

MC型(デュアルムービングコイル)ステレオカートリッジ AT-OC9/ⅢLTD MC



特長

●AT-OC9/Ⅲの限定モデル

1987年にオリジナルモデルAT-OC9が発売して以来、AT-OCシリーズは国内、国外にまたがりモデルチェンジを重ねながら、25年以上に渡り販売を続けております。

本製品は、AT-OCシリーズのフラッグシップモデルであるAT-OC9/Ⅲの基本設計をそのままに、より高音質化を目指した数量限定のスペシャルモデルです。カートリッジのベース部は、50周年モデル「AT50ANV」「AT150ANV」に採用した純チタン削り出し材で構成しています。

●高剛性純チタン削り出しボディ

カートリッジのベース部は、振動系がレコード盤の音溝を正確に電気信号に変換するための強固な土台となるだけでなく、ヘッドシェルとの結合の役割も果たす重要なパーツです。

本製品では、オリジナルのAT-OC9/Ⅲで採用したアルミ合金製から精密加工した純チタン削り出し材に変更しました。これまでのAT-OC9/Ⅲの情報量豊かな音質に加え、ベースの更なる高剛性化により不要振動を抑制し、より濁りが少なく力強い音の表現を可能にしました。

●特殊ラインコンタクト針とφ0.26ソリッドポロンカンチレバー

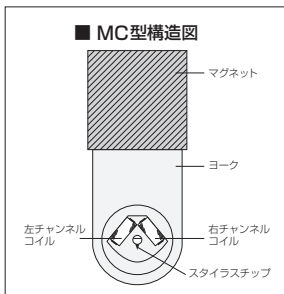
スタイラスチップには先端曲率半径、40μm×7μmの特殊ラインコンタクト針を採用。これによりアナログレコードに刻まれた音楽信号をくまなく読み取り、優れたダイナミック・コンプライアンスを実現しました。このラインコンタクト針をφ0.26のソリッドポロンカンチレバーへ強固に埋め込み接着することにより、針先で読み取られた音楽信号を正確に発電コイルに伝えます。

●磁気エネルギーを飛躍的に高めたネオジウムマグネットとパーメンジュールヨーク

マグネットには、最大エネルギー積、BHmax:50[kJ/m³]のネオジウムマグネットを採用し、ヨークには高い飽和磁束密度を持つ、優れた磁性材料のパーメンジュールを採用して、AT-OC9/Ⅲと同様にコイルギャップ部の集中磁界を強化しています。

●高セパレーション、ワイドレスポンスのデュアルムービングコイル

基本構造は、左右チャンネルのそれぞれに円筒状コイルを配した独自のMC型。左右チャンネルが独立して発電されるこの構造は、本質的に優れたセパレーション特性を備えています。反対チャンネルの信号が漏れ出ると、混変調歪みによりステレオの広がりや、音質に決定的な影響を与えます。本製品は、この構造によりクリアできめ細かい音質を達成しています。また、左右2本のコイルを逆V字状として針先から見た振動質量を減らし、コイルの不要な振動を抑えて歪みをなくしています。



●不要な振動を抑えるVCモールド

コイルを固定するVCモールドは高強度、高剛性化を可能にするチタン酸カリウムを配合した硬質合成樹脂材を採用しています。これにより本製品は軽量でありながらも高強度を実現し、不要な振動を抑えています。

●クワトロハイブリッドリード線を採用

リード線には金クラッド、7N-OFC、PCOCC、OFCをバランス良く配合したクワトロハイブリッドリード線を採用し、カートリッジ本体との理想的なバランスを追求しています。



お買い上げありがとうございます。
ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくご使用ください。
また保証書と一緒にいつでも必ず読める場所に保管しておいてください。

安全上の注意

本製品は安全性に充分な配慮をして設計をしていますが、**使いかたを誤ると事故が起こることがあります。事故を未然に防ぐために下記の内容を必ずお守りください。**

警告 この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が死亡または重傷を負う可能性があります」を意味しています。

注意 この表示は「取り扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う、または物的損害が発生する可能性があります」を意味しています。

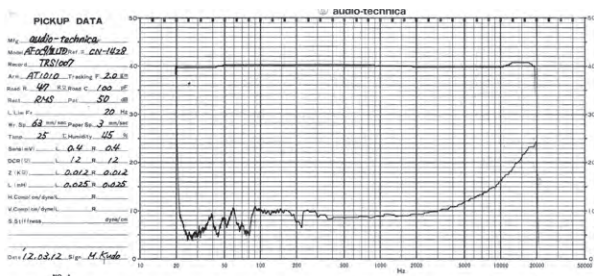
警告

●同梱のポリ袋は幼児の手の届く所や火 ●幼児の手の届く所に置かないのそばに置かない
事故や故障の原因になります。

注意

●直射日光の当たる場所、暖房器具の近く、高温多湿やほこりの多い場所に置かない
●強い衝撃を与えない
●振動系は指で触れない
故障、不具合の原因になります。

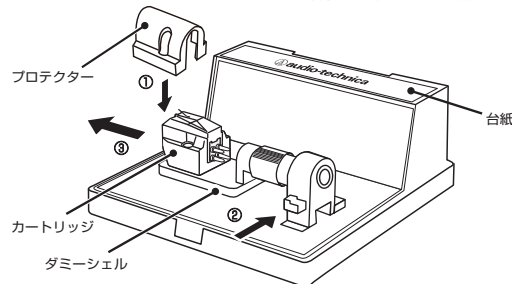
■周波数セパレーション特性



ケースからの取り外しかた

- ①上部の透明なケースを取り外し、台紙内のプロテクターをカートリッジに装着します。
- ②オレンジ色のボタンを奥へ押し込み、ロックを解除してください。
- ③ダミーシェルの側面を持って、図の矢印の方向に引き抜きます。
- ④付属のマイナスドライバーを使用して、カートリッジをダミーシェルから取り外してください。その際、カートリッジの針先を痛めないように充分ご注意ください。

※付属品は台紙の下部に収納されています。



注意
ケースでカートリッジを保管する場合、必ずプロテクターを装着してください。ダミーシェルまたはヘッドシェルを挿入後、オレンジ色のボタンを必ず手前へ押し、ロックをかけてください。ロックをかけないと、カートリッジが脱落し破損の原因となります。

使いかた

*針部分は大変デリケートです。取り扱いには充分ご注意ください。

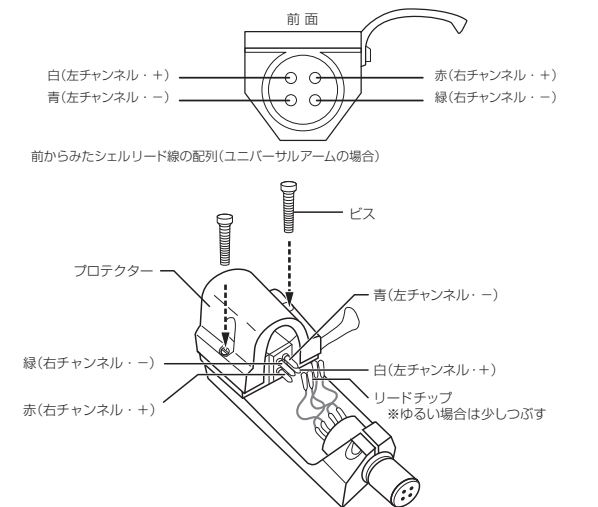
①ヘッドシェルに取り付けます。

下図のように振動系を痛めないよう、透明なプロテクターをかぶせたまま取り付けます。ビスは仮締めしておきます。

②出力端子の極性に注意してリードチップを接続します。

ユニバーサルアームのシェルリード線は、下図のように配列されています。カートリッジの出力端子へ、同じ色のリード線を接続します。リードチップが緩いときは、少しつぶしてから行なってください。接続後、プロテクターを取り外します。

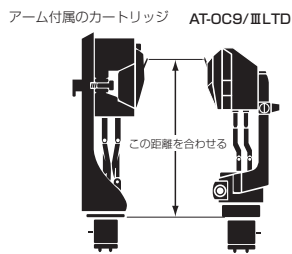
※出力端子にはハンダなどの熱を絶対に加えないでください。
※付属のリード線をご使用になると最高のマッチングが得られます。



③カートリッジの取り付け位置を正確に決めます。(オーバーハングの調整)

アームまたはプレーヤーシステムの説明書に従ってオーバーハングの調整をします。不明な場合は、プレーヤーに最初から付いていたカートリッジの針先位置に合わせてください。(右図)

※誤差が大きいと音質が劣化しますので、できるだけ±1mm以内に揃えてください。



*調整後、ビスを左右均等になるように本締めします。

④針圧を調整します。

本製品の適正針圧は1.8~2.2gで、標準値は2.0gです。使用条件やお好みによって、適正値の範囲内で針圧を調整してご使用ください。

⑤アームの高さを調整します。

ヘッドシェルの底面とレコード面が横から見て平行になるように、高さを調整してください。アームの高さが適切でない時、カートリッジのボディがレコードに当たり、音質が劣化することがあります。

※接続する機器によっては、アームの高さを調整できない機器もあります。

⑥アンプとの接続にはトランスかヘッドアンプ、もしくは単体フォノイコライザーが必要です。

本製品の音質を活かすため、アンプにフォノ(PHONO)入力(MCポジション)がある場合はそのまま使用することもできますが、昇圧トランス(別売)かヘッドアンプ、またはフォノイコライザー(別売)の使用をおすすめします。接続については、接続する機器の取扱説明書もご確認ください。

⑦針先をいつもきれいにしておいてください。

針先にごみや汚れが付着した場合は、付属のブラシできれいにしておいてください。汚れがひどい場合は、スタイラスクリーナー(別売)をおすすめします。根元から針先へ向かってブラシを動かしてクリーニングしてください。カートリッジをアームから外したときは忘れずにプロテクターを取り付け、アンプなどの熱源から離して保管してください。

針先クリーニングのしかた

ブラシは必ずレコードの進行方向に動かしてください。



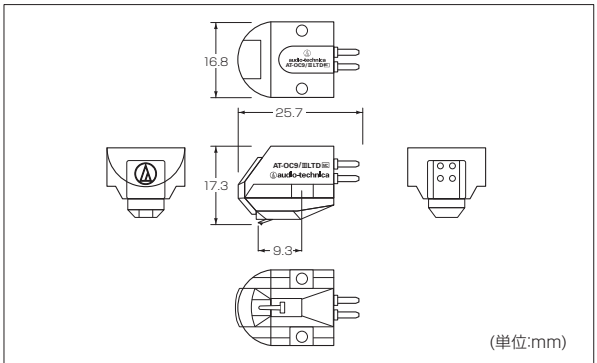
⑧針交換はカートリッジ全体をお取り換えします。

ご使用済みのカートリッジを販売店へお持ちください。当社販売中のMCカートリッジの中から、ご希望の機種を針交換価格でご提供させていただきます。

テクニカルデータ

型式	: MC型
再生周波数範囲	: 15~50,000Hz
出力電圧	: 0.4mV(1kHz, 5cm/sec.)
チャンネルセパレーション	: 30dB(1kHz)
出力バランス	: 0.5dB(1kHz)
針圧	: 1.8~2.2g(2.0g標準)
コイルインピーダンス	: 12Ω(1kHz)
直流抵抗	: 12Ω
負荷抵抗	: 100Ω以上(ヘッドアンプ接続時)
コイルインダクタンス	: 25μH(1kHz)
スタチックコンプライアンス	: 35×10 ⁻⁶ cm/dyne
ダイナミックコンプライアンス	: 18×10 ⁻⁶ cm/dyne(100Hz)
針先形状	: ラインコンタクト針 (先端曲率半径 40×7μm)
カンチレバー	: φ0.26ソリッドポロン
垂直トラッキング角	: 23°
外形寸法	: H17.3×W16.8×L25.7mm
質量	: 10.5g
●付属品	: 非磁性体ドライバー×1、ワッシャー×2、プロテクター×1 カートリッジ取り付けビス 11mm×2、16mm×2 ナット×2、ブラシ×1、クワトロハイブリッドリード線(AT6106)×1

(改良のため予告なく変更することがあります。)



アフターサービスについて
本製品をご家庭用として、取扱説明や接続・注意書きに従ったご使用において故障した場合、保証書記載の期間・規定により無料修理をさせていただきます。修理ができない製品の場合は、交換させていただきます。お買い上げの際の領収書またはしシートなどは、保証開始日の確認のために保証書と共に大切に保管し、修理などの際は提示をお願いします。

お問い合わせ先(電話受付/平日9:00~17:30)
製品の仕様・使いかたや修理・部品のご相談は、お買い上げのお店または当社窓口およびホームページのサポートまでお願いします。
●お客様相談窓口(製品の仕様・使いかた) ☎ 0120-773-417
(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0211)
FAX: 042-739-9120 Eメール: support@audio-technica.co.jp
●サービスセンター(修理・部品) ☎ 0120-887-416
(携帯電話・PHSなどのご利用は 03-6746-0212)
FAX: 042-739-9120 Eメール: servicecenter@audio-technica.co.jp
●ホームページ(サポート) www.audio-technica.co.jp/atj/support/

株式会社 オーディオテクニカ

〒194-8666 東京都町田市西成瀬2-46-1 http://www.audio-technica.co.jp
1124010308